

2003 年度 委員会活動成果報告

(年 月 日作成)

委員会名	建築法制度研究小委員会	主 査 名：松本光平
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築法制研究委員会	委員長名：稲垣道子
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>現行法制度の問題点を研究し、改善のため提言、あるべき新しい法制度の提言を行う。</p> <p>初年度：「建築基準法の脱構築に関する連続討議」を実施し、集団規定を中心とした法制度のあり方について提言をまとめる。</p> <p>2 年度：初年度の成果を関連団体と討議し、提言を改善する</p> <p>3 年度：同様に単体規定のあり方、既存建築物への適用等について討議し、提言をまとめる。</p> <p>4 年度：以上の成果を取りまとめて社会的に提言する。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	松本光平(明海大学) 赤崎弘平(大阪市立大学) 飯田直彦(国土交通省) 稲垣道子(フェリックス) 櫻田 攻(京都確認検査機構) 五條 渉(国土交通省) 竹市尚弘(竹中工務店) 田中元雄、田中義吉(田中義吉設計事務所) 兵藤幸治(ナショナル住宅) 平田京子(日本女子大学) 峰政克義(住宅総合研究財団) 矢代晴美(アジア防災センター) 柳沢厚(C-まち計画室)	
設置 WG (WG 名：目的)	提言起草 WG：提言の素案を起草し、広く意見を採り入れて、提言を最終案の作成作業を行うことを目的とする。	
2003 年度予算	100,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	小委員会は毎月 1 回程度開催し、年 4 回程度の連続シンポジウムを開催し、秋季の大会では、毎年、研究懇談会を主催している。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>(1) 建築基準法集団規定に対する改善提案：都市開発の活動の調整のルールについて新しい提言を行った。これによれば、適正な土地利用の実現、近隣紛争の軽減等を通じて、安全で機能的で快適な都市空間を創造する可能性が開ける。</p> <p>(2) 建築基準法単体規定における「性能規定化」の構成方法論点整理：2004 年 3 月現在、連続シンポジウムを開催中</p> <p>いずれも大会シンポジウム、連続シンポジウムを通じて、内容を公開し会員の意見を聴取した。</p> <p>上記の成果の上に、建築基準法及び都市計画法の改正に向けて、検討を進めている。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>当初の計画をほぼ達成している。</p> <p>地方分権化、デフレーション、高齢化、環境問題の深刻化等の下で、建築関連法制度の改変が急速に進められているが、研究者及び活動資金が少なく、これに十分には追従できない。</p>
その他評価すべき事項	建築学会における研究活動は、一般に各技術的専門分野ごとに行われるが、法制委員会の研究活動は通常、これらと横断的に結ばれる関係にある。このような特徴を活かして、法制度的な提言・問題提起等を行っている。